



一宮歩こう会 青春の東海道歩き

かわら版 34号

いよいよ最終の第27ステージ4/7、第28ステージ4/8である。4/7はどこを歩くかより横浜中華街で開く「完歩前夜祭」が焦点だ。幸先良く読売新聞が4/7の朝刊に大きく記事を出してくれた。会長が新聞社を廻った成果である。駅のコンビニで早速購入してきた人もいたし、留守宅のご主人から携帯電話でメールを送ってくれた人もあったそうだ(便利な世の中になった)。

「完歩前夜祭」は横浜中華街・大珍楼。2880円のオーダー式食べ放題コースを下見の時に支配人と相談して見繕い10品とプラス1500円で飲み放題にしたもの。7時にスタートして8時15分に中締めをした後も飲み放題テーブルの34人は制限時間いっぱい9時まで飲み続け。「美味かった」「安かった」と大満足の一夜であった。ホテルの食堂では、完歩証に会長印を押す作業が始まった。「額に入れて飾る」人から「棺桶に入れる」人まで『きれいに押して』の要求に、会長は製作費1万5千円の特注印を手に孤軍奮闘。



東海道 120人「完歩」めざす



東海道で折折りの絶景が眺められる隠座(さった)峠に到着した「青春の東海道歩き」参加者(静岡県清水区で)＝2011年9月10日、内藤留安さん撮影

毎月1回、1区間
スタートは2010年3月27日。一般公募で集まった173人が早朝にJR東海道線で京都まで向かい、三条大橋を出発した。総延長517kmの完歩を目指す本隊と、完歩は目指さないが、名所旧跡に立ち寄り観光を楽しむ隊に分かれ、可能な限り旧街道や宿場跡のルートを選んだ。
各区間とも原則として日帰り、出発地点までの往路と終了地点からの復路は別安な「JR青春18きっぷ」や貸し切りバスを利用。当初の計画通り、同年6月26

尾張地方のウォーキング好きな人たちが集まる、「一宮歩こう会」(小堀敏之会長)が2年がかりで続けてきた「青春の東海道歩き」の一行が8日、ゴールの東京・日本橋に到着する。総延長517kmの東海道を28区間に分けて毎月1回、1区間(15〜25km)を西から東に向かって距離を延ばしてきた。参加者の平均年齢は約65歳。体力的に厳しい行程だったが、約120人が歩き通す見通しだ。

あすゴール・日本橋に
一宮の同好会公募 平均年齢65歳

日に浜崎、三重県境の鈴鹿峠、同年9月4日に名古屋・熱田まで進み、11年7月23日には静岡市、今年1月15日に箱根峠まで進んだ。最終区間のうち銀座から日本橋までは、横断線を先頭に、そのいのりシナルTシャツを着用して歩く予定。完歩を達成する一宮市東五城の内藤留安さん(69)は「みんなから励まされながらゴールまで歩くことができるのはすごい充実感がある。一生の記念になります」と語った。
同会の小堀会長は「参加者が東海道歩きを生きがいにしてくれたのが、何よりうれしい」と話した。

